

就職演習

授業の目的・概要

本授業では、動物業界を中心とした就職活動に必要な自己理解・応募書類作成・面接対応・ビジネスマナーの基礎を総合的に身につけることを目的とする。自己分析や価値観の整理を通して自身の適性や強みを明確化し、自己 PR や志望動機を論理的に作成できる力を養う。また、履歴書作成や書類選考対策を行い、採用プロセスへの理解を深める。さらに、模擬面接やグループディスカッションを通して、表現力・協働性・コミュニケーション能力を向上させる。加えて、社会人として必要なビジネスマナーや一般常識を学び、職業人としての基礎力を身につける。授業全体を通して、主体的に就職活動へ取り組む姿勢と実践的な行動力を養い、円滑な社会人移行を目指す。

科	生命科学科	教員	岡田 有沙
コース	トリミングマネジメントゼミ	教員の実務経験	動物関連産業 20 年
対象年次	2 年	年間単位数	1 単位

目標

・自己理解を深める

自分の強み・弱み、興味、価値観を整理して、目指す職へのビジョンを明確にする。

・就職活動の基本を学ぶ

企業研究の方法、マナーなどを学ぶ。

・就職後に必要な知識を学ぶ

労働について理解する。

授業計画

第 1 回 面接を意識した自己紹介

第 2 回 就職への道

第 3 回 自己分析①

第 4 回 価値観①

- 第 5 回 価値観②
- 第 6 回 求めるもの①
- 第 7 回 求めるもの②
- 第 8 回 自己分析②
- 第 9 回 自己アピール力・他己分析
- 第 10 回 強みとスキル
- 第 11 回 応募書類・書類審査について
- 第 12 回 自己 PR 作成①
- 第 13 回 自己 PR 作成②
- 第 14 回 志望動機の書き方
- 第 15 回 履歴書の記入
- 第 16 回 就活進捗状況確認①
- 第 17 回 就活進捗状況確認②
- 第 18 回 面接①
- 第 19 回 面接②
- 第 20 回 面接③
- 第 21 回 グループディスカッション①
- 第 22 回 グループディスカッション②
- 第 23 回 会社に求められる能力
- 第 24 回 ビジネスマナー ～社会人になったら～①
- 第 25 回 ビジネスマナー ～社会人になったら～②
- 第 26 回 ビジネスマナー ～社会人になったら～③
- 第 27 回 ビジネス・一般常識①
- 第 28 回 ビジネス・一般常識②
- 第 29 回 ビジネス・一般常識③
- 第 30 回 今後の就活のスケジュール作成／内定先に必要なスキルのまとめ

授業の方法

演習

教材

必要に応じてプリントを配布

評価の方法

期末試験 60%、課題への取り組み 20%、平常点 20%（出席率、授業態度等）で総合的に評価する。

授業外での学習方法

授業内で出される課題をノートで提出

実務経験と授業科目の関係

店長として店舗運営に携わり、採用面接官として多数の人材選考を経験。

「企業が求める人物像」や「面接で評価されるポイント」に関する知見を活かし、
学生一人ひとりの強みを引き出す。

簿記

授業の目的・概要

本授業では、簿記の基本原則から企業の財務諸表作成までの一連の会計処理を体系的に理解し、経済活動を数値的に把握する能力を身につけることを目的とする。簿記の意義や取引の仕訳、商品売買や現金・預金、手形取引などの基本的処理を学び、帳簿記録の基礎を習得する。また、試算表や決算整理、精算表の作成を通して、企業の経営成績や財政状態を正しく読み取る力を養う。さらに、経過勘定や減価償却、貸倒れ処理などの決算整理項目について理解を深め、実践的な会計処理能力を身につける。授業全体を通して、問題演習を繰り返し行うことで検定試験への対応力を高め、動物業界を含む幅広い職種において求められる基礎的なビジネス会計力を養う。

科	生命科学科	教員	岡田 有沙
コース	トリミングマネジメントゼミ	教員の実務経験	動物関連産業 20 年
対象年次	2 年	年間単位数	3 単位

目標

- ・簿記 3 級の検定合格を目指すことができる。
- ・取引の記録・計算・整理など、基本的な会計処理の方法を理解し、正確に処理する力を身につける。
- ・財務諸表を読み取り、経営状況を把握・分析する基礎的な能力を身につける。
- ・試算表・精算表・財務諸表を作成できるようになる。

授業計画

第 1 週目 簿記の意義／財務諸表と簿記の 5 要素／問題演習

第 2 週目 日常の手続き／商品売買①／商品売買②／問題演習

第 3 週目 現金・預金／小口現金／クレジット買掛金／問題演習

- 第4週目 手形取引／電子記録債権・債務／問題演習
- 第5週目 その他の取引①／その他の取引②／問題演習
- 第6週目 その他の取引③／さまざまな帳簿の関係／問題演習
- 第7週目 まとめ①／問題演習
- 第8週目 試算表／決算／問題演習
- 第9週目 まとめ②／問題演習
- 第10週目 決算整理①売上原価／問題演習
- 第11週目 決算整理②現金化不足／問題演習
- 第12週目 決算整理③貸倒れ／問題演習
- 第13週目 決算整理④減価償却／問題演習
- 第14週目 決算整理⑤貯蔵品／問題演習
- 第15週目 決算整理⑥当座借越／問題演習
- 第16週目 仕訳問題
- 第17週目 決算整理⑦経過勘定科目／問題演習
- 第18週目 まとめ③／問題演習
- 第19週目 決算整理後残高試算表／精算表／問題演習
- 第20週目 まとめ④／問題演習
- 第21週目 帳簿の締め切り（英米式決算）／問題演習
- 第22週目 まとめ⑤／問題演習
- 第23週目 損益計算書と貸借対照表／問題演習
- 第24週目 まとめ⑥／問題演習
- 第25週目 株式の発行／過剰金の配当と処分／税金／問題演習
- 第26週目 証ひょう／伝票／問題演習
- 第27週目 まとめ⑦／問題演習
- 第28週目 検定対策①／問題演習
- 第29週目 検定対策②／問題演習

第 30 週目 検定対策③／問題演習

授業の方法

演習

教材

TAC 出版 合格テキスト 日商簿記 3 級／必要に応じてプリントを配布

評価の方法

期末試験 60%、課題への取り組み 20%、平常点 20%（出席率、授業態度等）で総合的に評価する。

授業外での学習方法

プリント・課題・問題集の中で、していたれた範囲まで行い提出する

実務経験と授業科目の関係

個人事業の実務経験は簿記と密接に関係しています。

売上や経費の管理、帳簿作成など、簿記を実際に活用する場面が多々あります。

インターンシップⅡ

授業の目的・概要

本授業は、動物業界への就職を目指す学生が、インターンシップを通じて実際の職場環境を体験し、専門知識・技術の実践力を養うことを目的とする。動物病院、ペットショップ、トリミングサロン、ペットホテル、動物福祉施設などの現場において、動物の飼養管理や健康観察、接客対応、衛生管理、チームでの業務遂行などを体験し、職業人として求められる責任感やコミュニケーション能力を身に付ける。また、現場での体験を通じて自己の適性や課題を把握し、将来の進路選択や就職活動に役立てることを目指す。事前指導では職業倫理や安全管理について学び、実習後には振り返りと成果報告を行うことで、学習成果の定着とキャリア形成につなげる。

科	生命科学科	教員	林
コース	全ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2 年次	年間単位数	1 単位

目標

- ・動物業界の現場における業務内容や役割を理解し、基本的な業務を適切に実践できる。
- ・動物の飼養管理、健康観察、衛生管理などに関する実践的な知識・技術を身に付ける。
- ・職業人として必要なビジネスマナー、コミュニケーション能力、協調性を身に付け、円滑に行動できる。
- ・インターンシップで得た経験を振り返り、自身の適性や課題を把握するとともに、将来の進路選択や就職活動に活かすことができる。

授業計画

- 第 1 回 インターンシップ概要説明・目的理解・受入先の紹介
- 第 2 回 ビジネスマナー・職業倫理・安全管理・注意事項説明
- 第 3 回 インターンシップ① 施設理解とオリエンテーション
- 第 4 回 インターンシップ② 施設見学と業務内容の把握
- 第 5 回 インターンシップ③ 接客・来客対応の補助
- 第 6 回 インターンシップ④ 電話対応・受付業務の補助
- 第 7 回 インターンシップ⑤ 施設内清掃・衛生管理業務
- 第 8 回 インターンシップ⑥ 飼育環境の整備と安全確認
- 第 9 回 インターンシップ⑦ 動物の健康観察と記録
- 第 10 回 インターンシップ⑧ 給餌・給水業務の補助
- 第 11 回 インターンシップ⑨ 動物の保定補助
- 第 12 回 インターンシップ⑩ 日常ケア業務の補助
- 第 13 回 インターンシップ⑪ 施設備品・消耗品管理

第 14 回	インターンシップ⑫	顧客対応・コミュニケーション実践
第 15 回	インターンシップ⑬	チーム業務への参加
第 16 回	インターンシップ⑭	担当業務の実践①
第 17 回	インターンシップ⑮	担当業務の実践②
第 18 回	インターンシップ⑯	担当業務の実践③
第 19 回	インターンシップ⑰	担当業務の実践④
第 20 回	インターンシップ⑱	担当業務の実践⑤
第 21 回	インターンシップ⑲	担当業務の実践⑥
第 22 回	インターンシップ⑳	担当業務の実践⑦
第 23 回	インターンシップ㉑	担当業務の実践⑧
第 24 回	インターンシップ㉒	担当業務の実践⑨
第 25 回	インターンシップ㉓	担当業務の実践⑩
第 26 回	インターンシップ㉔	担当業務の実践⑪
第 27 回	インターンシップ㉕	担当業務の実践⑫
第 28 回	インターンシップ㉖	担当業務の実践⑬
第 29 回	インターンシップ㉗	担当業務の実践⑭
第 30 回	インターンシップ㉘	担当業務の実践⑮
第 31 回	インターンシップ㉙	担当業務の実践⑯
第 32 回	インターンシップ㉚	担当業務の実践⑰
第 33 回	インターンシップ㉛	担当業務の実践⑱
第 34 回	インターンシップ㉜	総合実践・就業力向上
第 35 回	インターンシップ成果報告会・振り返り・自己評価と今後の課題整理	

授業の方法

インターンによる実践。

教材

必要な資料を概要説明時に配布する。

評価の方法

インターンへの参加意欲 20%、企業の評価 50%、レポート提出 30%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習では、受入先の業務内容や業界動向について調べるとともに、ビジネスマナーや安全管理、動物の飼育管理に関する基礎知識を復習する。事後学習では、実習日誌や記録を整理し、実習で得た知識・技術や課題を振り返ることで理解を深め、今後の学習や就職活動に活かす。

実務経験と授業科目の関係

教育・研究に従事するとともに、大学生の進路指導やキャリア支援に携わった経験を有する。本授業では、その経験を活かし、インターンシップにおける職業意識の形成や社会人基礎力の向上を支援するとともに、実習経験を将来の進路選択や就職活動につなげるための指導を行う。

特別活動 II

授業の目的・概要

学校行事への参加を通じて、専門分野への理解を深めるとともに、協調性や主体性、社会性を養う。各種行事における事前準備、参加、振り返りを通じて学びを深化させ、将来の職業人として必要な資質の向上を目指す。

科	生命科学科	教員	林
コース	全ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2 年次	年間単位数	1 単位

目標

- ・学校行事の目的や意義を理解し、主体的に参加できる。
- ・行事を通じて専門分野への理解を深め、学びを実践に結び付けることができる。
- ・他者と協力しながら活動に取り組み、協調性や社会性を身に付ける。
- ・行事で得た経験を振り返り、自己の成長や課題を今後の学習・進路選択に活かすことができる。

授業計画

- 第 1 回 特別活動の目的と年間計画の理解
- 第 2 回 学校行事に参加する意義と学習目標の設定
- 第 3 回 研修旅行事前学習①（研修目的の理解）
- 第 4 回 研修旅行事前学習②（訪問先・業界研究）
- 第 5 回 研修旅行事前学習③（グループ活動計画の作成）
- 第 6 回 研修旅行事前学習④（安全管理・マナーの確認）
- 第 7 回 研修旅行事前学習⑤（事前調査の共有）
- 第 8 回 研修旅行への参加
- 第 9 回 研修旅行振り返り①（体験内容の整理）
- 第 10 回 研修旅行振り返り②（学習成果の共有）
- 第 11 回 校外実習事前学習①（実習目的の理解）
- 第 12 回 校外実習事前学習②（実習先研究）
- 第 13 回 校外実習事前学習③（安全管理とマナー）
- 第 14 回 校外実習事前学習④（学習課題の設定）
- 第 15 回 校外実習への参加
- 第 16 回 校外実習振り返り①（活動内容の整理）
- 第 17 回 校外実習振り返り②（成果と課題の分析）
- 第 18 回 KAP エキスポ事前学習①（イベントの目的と業界動向の理解）

- 第 19 回 KAP エキスボ事前学習②（企業研究・出展内容の確認）
- 第 20 回 KAP エキスボ事前学習③（見学計画の作成）
- 第 21 回 KAP エキスボ事前学習④（質問事項の作成）
- 第 22 回 KAP エキスボへの参加
- 第 23 回 KAP エキスボ振り返り①（見学内容の整理）
- 第 24 回 KAP エキスボ振り返り②（学習成果の共有）
- 第 25 回 卒業研究発表会事前学習①（研究テーマの理解）
- 第 26 回 卒業研究発表会事前学習②（発表の着眼点と評価方法）
- 第 27 回 卒業研究発表会事前学習③（専門知識の整理）
- 第 28 回 卒業研究発表会への参加
- 第 29 回 卒業研究発表会振り返り・学習成果の共有
- 第 30 回 年間活動の総括（自己評価・今後の目標設定）

授業の方法

演習形式で進めていき、グループワークや意見交換を積極的に取り入れていく。

教材

特にないが、必要に応じて資料を配布していく。

評価の方法

授業への参画 30%、成果発表 50%、レポート提出 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習では、各行事の目的や内容、関連する業界・専門知識について調査し、学習課題を明確にする。事後学習では、活動記録やレポートを作成し、得られた知識や気づきを整理するとともに、自身の成長や課題を振り返り、今後の学習や進路形成に活かす。

実務経験と授業科目の関係

教育・研究に従事するとともに、大学生の進路指導やキャリア支援に携わった経験を有する。本授業では、その経験を活かし、各種学校行事への参加を通じた主体的な学びや職業意識の形成を支援する。また、活動前後の目標設定や振り返りを通じて、行事で得た経験を自己成長やキャリア形成につなげられるよう指導を行う。

動物関連法規学Ⅱ

(授業概要)

本授業では、動物業界における法的知識を体系的に理解し、動物の適正な取扱いと飼育・展示・預かり業務に必要な法令遵守能力を身につけることを目的とする。動物の法的立場や財産としての扱い、保護動物の飼育に関する法的制約について学び、民法における飼い主の責任や実例を通じた法的問題への対応力を養う。また、マンション等の住環境におけるペット問題や、動物の預かり・譲渡に関する契約（寄託契約・贈与契約）について理解を深める。さらに、身体障害者補助犬法、獣医師法、愛玩動物看護師法などの関連法規を学び、動物医療や福祉に関する基礎知識を習得する。加えて、鳥獣保護法など身近な野生動物に関する規制についても理解し、動物と人間社会の関係を法的観点から適切に判断できる力を養うことを目指す。

科	生命科学科	教員	井田 竜馬
コース	トリミングマネジメントゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2 年	年間単位数	1 単位

目標

前期

動物の法的立場や飼い主の責任について理解することができる。

後期

マンションにおけるペット問題、動物の譲渡等においてトラブルに巻き込まれないために実例などを元に理解することができる。

授業計画

- 1回 動物の法的立場 (1) 法律における動物の位置づけ
- 2回 動物の法的立場 (2) 動物に財産を残す場合 その1
- 3回 動物の法的立場 (3) 動物に財産を残す場合 その2
- 4回 動物の法的立場 (4) 保護動物を飼育する場合 その1
- 5回 動物の法的立場 (5) 保護動物を飼育する場合 その2
- 6回 飼い主の法的責任 (1) 民法第718条について その1
- 7回 飼い主の法的責任 (2) 民法第718条について その2
- 8回 飼い主の法的責任 (3) 実例を元に考える その1
- 9回 飼い主の法的責任 (4) 実例を元に考える その2

- 10 回 飼い主の法的責任（5）実例を元に考える その3
- 11 回 マンションにおけるペット問題（1）管理規約とは
- 12 回 マンションにおけるペット問題（2）使用細則とは
- 13 回 マンションにおけるペット問題（3）ペット可のマンションについて
- 14 回 マンションにおけるペット問題（4）ペット不可のマンションについて
- 15 回 動物を預かる際に気を付けるべき事柄（1）寄託契約その1
- 16 回 動物を預かる際に気を付けるべき事柄（2）寄託契約その2
- 17 回 動物を預かる際に気を付けるべき事柄（3）寄託契約に関する実例
- 18 回 動物を譲り渡す際に気を付ける事柄（1）贈与契約その1
- 19 回 動物を譲り渡す際に気を付ける事柄（2）贈与契約その2
- 20 回 動物を譲り渡す際に気を付ける事柄（3）贈与契約その3
- 21 回 身体障害者補助犬法（1）法の概要
- 22 回 身体障害者補助犬法（2）身体障害者補助犬の定義
- 23 回 身体障害者補助犬法（3）アクセスの保証その1
- 24 回 身体障害者補助犬法（4）アクセスの保証その2
- 25 回 獣医師法と愛玩動物看護師法（1）法の概要
- 26 回 獣医師法と愛玩動物看護師法（2）診療行為とは何か
- 27 回 獣医師法と愛玩動物看護師法（3）トリマーやトレーナーが行える行為など
- 28 回 鳥獣保護法（1）身近な動物の規制について その1
- 29 回 鳥獣保護法（2）身近な動物の規制について その2
- 30 回 鳥獣保護法（2）身近な動物の規制について その3

の

講義

テキスト、自作のプリント

の

試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

での

1回1回の授業ノートに関してポイントを各自纏めなおし、随時チェックする。

との

長らくペット分野の許認可を含む法律事務に関わる業務を行っており、ペットビジネスのサポートを行っている。それらの経験を下地に、プロとして動物に関わっていくために必要な知識などを解説していく。

開業準備・カウンセリング学

授業の目的・概要

本授業では、ペットサロンや動物関連事業の開業および運営に必要な基礎知識と実践的スキルを身につけることを目的とする。事業形態や立地選定、市場調査などの開業準備から、申請書類や契約書作成といった実務的な手続きについて理解を深める。また、顧客目線での売場づくりや商品配置、フォトブースの活用、POP 作成、販売促進の方法など、集客と売上向上に関する実践的な手法を学ぶ。さらに、接客・電話対応・予約管理などの基本的なカウンセリング技術を習得するとともに、スタッフ採用や労務管理など経営者として必要な知識も学ぶ。授業全体を通して、動物業界におけるサービス業の特性を理解し、顧客対応力と経営視点の両面を備えた実践的な人材の育成を目指す。

科	生命科学科	教員	岡田 有沙
コース	トリミングマネジメントゼミ	教員の実務経験	動物関連産業 20 年
対象年次	2 年	年間単位数	1 単位

目標

- ・自分の理想の店をイメージすることができる。
- ・周りの情報を収集の方法を習得することができる。
- ・売り場を知り、効果的な販売を理解することができる。
- ・サロンオープンの準備のイメージを持つことができる。
- ・オーナー目線のイベント企画・流れを理解することができる。

授業計画

- 第1週 授業の説明・導入
- 第2週 ペットサロンの形態
- 第3週 理想のペットサロンを想像しよう
- 第4週 立地のリストアップ・市場調査

- 第 5 週 サロン起業に必要な申請書類
- 第 6 週 顧客カルテ・預かりの契約書
- 第 7 週 しょっぱい（売り場を見る）お客様の目線
- 第 8 週 グループワーク（しょっぱいを見て）
- 第 9 週 売場作成について（配置・並べ方）
- 第 10 週 フォトブース作成（夏）
- 第 11 週 売上 UP に向けて
- 第 12 週 販売のコツ・声かけ・呼び込み・ビラ配り
- 第 13 週 店内での受付
- 第 14 週 電話での予約受付・電話での案内
- 第 15 週 商品仕入れの流れと接客
- 第 16 週 経営者側が知っておくべき労務管理①
- 第 17 週 経営者側が知っておくべき労務管理②
- 第 18 週 経営者側が知っておくべき労務管理③
- 第 19 週 スタッフの雇用・面接する側として
- 第 20 週 商品の魅力
- 第 21 週 年間行事・効果的なセールの開催法
- 第 22 回 POP とは
- 第 23 回 POP（文字練習）①
- 第 24 回 POP（文字練習）②
- 第 25 回 POP（作成のコツ）
- 第 26 回 POP 作成
- 第 27 回 効果的なイベント開催法①
- 第 28 回 効果的なイベント開催法②
- 第 29 回 効果的なイベント開催法③
- 第 30 回 トリミングのカウンセリング

授業の方法

演習

教材

必要に応じてプリントを配布

評価の方法

期末試験 60%、課題への取り組み 20%、平常点 20%（出席率、授業態度等）で総合的に評価する。

授業外での学習方法

授業内で出される課題をノートで提出

実務経験と授業科目の関係

担当教員は自営業の開業・運営経験を有しており、その実体験をもとに、理論に加えて現場での課題や意思決定について具体的に解説する。これにより、受講者は開業に伴う現実的な課題やリスクを理解し、実践的な知識と判断力を身につける。

トリミング起業ゼミ演習

(授業概要)

本授業は、動物業界でトリマーとして必要な基礎知識と実践技術の習得を目的とする。ブードルを中心に、マルチーズ、シュナウザー等の犬種別カット理論を学び、モデルグルーミングで基本技術の理解を深めたうえで、ブラッシング、シャンプー、ドライイング、バリカンワーク、部位別の仕上げへと段階的に実習を行う。さらに、制限時間内での単独カット実習により、作業効率と完成度を高め、ライセンス試験を通じて総合的な技術評価を実施する。加えて、安全衛生管理や動物福祉への配慮を踏まえ、現場で求められる専門職としての基礎力を養成する。

科	生命科学科	教員	神坂 美紀・山崎 雅代
コース	トリミングマネジメントゼミ	教員の実務経験	サロントリマー 8 年
対象年次	2 年	年間単位数	24 単位

目標

前期

犬種ごとのカットスタイルを理解し、実践できるようになる。

鉋の動かし方を確実に丁寧にを行うことができるようになる。

飼い主対応、カットのオーダーの取り方を理解する。

後期

トリミングマスターライセンス取得に向け時間配分・仕上がりを意識しカットが出来るようにする。

(ブードル:ベーシック 90 分・テディベアカット 100 分以内に仕上げ)

一人で接客対応・説明を行えるようになる。

授業計画

- 1 週 カット講義 (ブードル全般、マルチーズ・シーザー)
- 2 週 カット講義 (ポメラニアン全般、全身バリカン、毛流れ)
- 3 週 カット講義 (A・コッカー、ヨークシャー・テリア)
- 4 週 カット講義 (ウェスティ、ワイアー・フォックス・テリア)
- 5 週 カット講義 (シュナウザー、スコティッシュ・テリア)
- 6 週 モデルグルーミング (ブードルテディ、ラム)
- 7 週 モデルグルーミング (シュナウザー)
- 8 週 モデルグルーミング (ポメラニアン)
- 9 週 モデルグルーミング (ヨークシャー・テリア)
- 10 週 トリミング実習 (2 人で 1 頭) ブードルブラッシング、もつれ取り

11 週	トリミング実習（2人で1頭）ブードルブラッシング、もつれ取り復習
12 週	トリミング実習（2人で1頭）ブードルブラッシング、もつれ取り、シャンプー、ドライイング
13 週	トリミング実習（2人で1頭）ブードルブラッシング～ドライイングの復習
14 週	トリミング実習（2人で1頭）ブードルブラッシング～ドライイング、耳掃除、ボディバリカン
15 週	トリミング実習（2人で1頭）ブードルベーシック～ボディバリカンの復習
16 週	前期試験、トリミング実習（2人で1頭）ブードルベーシック～ボディバリカン、足周り
17 週	トリミング実習（2人で1頭）ブードルベーシック～足周りの復習
18 週	試験返却、試験の振り返り、トリミング実習（2人で1頭）ブードルベーシック～足周り、後肢側面・内側
19 週	トリミング実習（2人で1頭）ブードルベーシック～後肢側面・内側、後肢前後・お尻
20 週	トリミング実習（2人で1頭）ブードルベーシック～後肢前後・お尻、前肢側面・内側
21 週	トリミング実習（2人で1頭）ブードルベーシック～前肢側面・内側、前肢前後・胸
22 週	トリミング実習（2人で1頭）ブードルベーシック～胸、顔・耳・尾
23 週	トリミング実習（1人で1頭）ブードルテディベアカット 300 分
24 週	トリミング実習（1人で1頭）ブードルテディベアカット 270 分
25 週	トリミング実習（1人で1頭）ブードルテディベアカット 230 分
26 週	トリミング実習（1人で1頭）ブードルテディベアカット 200 分
27 週	トリミング実習（1人で1頭）ブードルテディベアカット 170 分
28 週	トリミング実習（1人で1頭）ブードルテディベアカット 130 分
29 週	トリミング実習（1人で1頭）ブードルテディベアカット 100 分
30 週	トリミング実習・ライセンス試験（3週に分けて実施）①ブードルテディベアカット 100 分
31 週	トリミング実習・ライセンス試験（3週に分けて実施）②ブードルテディベアカット 100 分
32 週	トリミング実習・ライセンス試験（3週に分けて実施）③ブードルテディベアカット 100 分
33 週	トリミング実習（1人で1頭）ブードルベーシック～顔バリカン・足先バリカン
32 週	トリミング実習（1人で1頭）ブードルベーシック～デザインカット（マイアミカット）
33 週	トリミング実習（1人で1頭）ブードルベーシック～デザインカット（マッシュカット）
34 週	トリミング実習（1人で1頭）ブードルベーシック～デザインカット（おパンツカット）
35 週	トリミング実習（1人で1頭）ブードルベーシック～デザインカット（ひつじカット）

授業の方法

資料を使いトリミングの基礎となるカットラインやバリカンラインを教える。

ブリーダーやモデル犬を使用し実技実習を行う。

教材

グルーミング用品・講義プリント(犬種別カット方法)

評価の方法

定期試験（実技）30%、授業態度（意欲態度 30%、言葉遣い 10%、犬の扱い方 30%）70%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

ハサミの動かし方を自宅で練習しながら、イメージトレーニングを行う。

SNSなどでカットの動画を見て復習する。

カットの手順やバリカンのラインなどを、講義資料に書き出し整理する。

実務経験と授業科目の関係

ペットショップにてトリマー兼、店長として8年勤務。トリミング、生体販売、物品販売から売上管理まで様々な業務経験を活かし指導にあたる。

アニマルケア概論

授業の目的・概要

本授業は、動物看護および飼育現場において必要となるアニマルケアの基礎概念と実践的知識を体系的に理解することを目的とする。動物の行動特性や健康状態の把握方法、日常的な給餌・衛生管理・ハンドリング技術を学び、適切なケアを行うための基礎力を養う。また、動物福祉の視点に基づき、ストレス軽減や環境エンリッチメントの重要性を理解するとともに、種別やライフステージに応じたケアの違いを学習する。さらに、チーム医療や飼い主対応も含めた総合的な動物ケア能力の育成を図る。

科	生命科学科	教員	荻野
コース	トリミングマネジメントゼミ	教員の実務経験	ペット系企業経営
対象年次	2 年次	年間単位数	1 単位

目標

- ・動物の行動や健康状態を観察し、基本的なアニマルケアを実践できる
- ・給餌・衛生管理・ハンドリングなどの日常ケア技術を身に付ける
- ・動物福祉の観点から適切な飼育環境やストレス軽減方法を説明できる
- ・種やライフステージに応じたケアの違いを理解し、適切に対応できる

授業計画

- 第1週 オリエンテーション（授業概要・動物ケアの意義）
- 第2週 動物ケアの基本概念（ケア・福祉・管理の違い）
- 第3週 動物福祉の基本原則
- 第4週 動物の行動理解①（本能行動・学習行動）
- 第5週 動物の行動理解②（ストレス行動・問題行動）
- 第6週 動物の観察方法
- 第7週 健康状態の基本評価
- 第8週 日常ケアの基礎①（給餌・給水）
- 第9週 日常ケアの基礎②（清掃・環境整備）
- 第10週 ハンドリング技術の基礎
- 第11週 保定方法と安全管理
- 第12週 ストレス管理と環境エンリッチメント
- 第13週 感染症予防と衛生管理
- 第14週 動物の栄養管理の基礎
- 第15週 中間まとめ・実技確認
- 第16週 動物種別ケアの違い

第 17 週	犬のケア実践
第 18 週	猫のケア実践
第 19 週	小動物のケア実践
第 20 週	高齢動物のケア
第 21 週	幼齢動物のケア
第 22 週	リハビリ・補助ケアの基礎
第 23 週	行動修正とトレーニング基礎
第 24 週	飼育環境デザイン①
第 25 週	飼育環境デザイン②（改善）
第 26 週	チームケアと連携（動物看護・飼育員連携）
第 27 週	飼い主対応・インフォームドケア
第 28 週	動物福祉事例研究
第 29 週	総合ケア実習（シミュレーション）
第 30 週	まとめ・最終評価・振り返り

授業の方法

講義形式

教材

必要な資料を授業中に配布する。

評価の方法

試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習として、各回のテーマに関連する動物種の特徴やケア方法について教科書や資料を読み、基本用語や手順を整理する。事後学習として、授業で学んだ内容を振り返り、実習記録やノートにまとめることで理解を深め、実践場面を想定して知識の定着を図る。

実務経験と授業科目の関係

現場の実務と経営の双方に携わっており、その経験を通じて得た実践的な動物ケアや顧客対応、サービス品質管理の知識を授業に反映できる点が特徴である。アニマルケアは単なる飼育技術にとどまらず、飼い主満足度や動物福祉、事業運営とも密接に関わるため、現場での判断基準や経営視点を交えた指導により、実務に直結した理解を深めることができる。

基礎健康管理学 II

授業の目的・概要

犬・猫を中心とした動物の緊急時における症状の把握、応急処置、および予防策に関する基礎知識を習得するとともに、新生子ケアからエンジェルケアに至るまで、動物の一生の各ステージに適した専門的ケアのあり方を包括的に理解することを目的とする。

科	生命科学科	教員	寺鼻 友美
コース	トリミングマネジメントゼミ	教員の実務経験	動物病院勤務 7 年・一般企業営業 5 年・ペット用品卸の会社広報(営業)1 年半
対象年次	2 年	年間単位数	1 単位

目標

- ・動物のエマージェンシーの定義を正しく理解し、異変を早期に察知するための観察ポイントと専門知識を習得する。トリマーとして現場で求められる最低限の応急処置、適切な接し方、および事故の予防策を身につける。
- ・トリマーが現場で直面しうる緊急事態への的確な初期対応と予防策を定着させる。あわせて、動物の一生における起点と終点である「新生子ケア」および「高齢ケア」「エンジェルケア（死後処置）」について、専門的な接し方と注意点を習得する。

授業計画

- 1 回 授業について エマージェンシーとは
- 2 回 状態確認の方法① TPR・BW・全身チェックの復習
- 3 回 状態確認の方法② 異常時の確認方法について
- 4 回 応急処置 外傷
- 5 回 応急処置 出血
- 6 回 応急処置 やけど① 概要・状態の確認方法
- 7 回 応急処置 やけど② 応急処置・その後の流れ
- 8 回 応急処置 熱中症① 概要・状態の確認方法
- 9 回 応急処置 熱中症② 応急処置・その後の流れ

- 10 回 応急処置 熱中症について飼い主指導 デモンストレーション
- 11 回 応急処置 ショック① 概要・状態の確認方法
- 12 回 応急処置 ショック② 応急処置・その後の流れ
- 13 回 応急処置 骨折①
- 14 回 応急処置 骨折② 応急処置・その後の流れ
- 15 回 前期まとめ(試験対策)
- 16 回 心肺蘇生について①
- 17 回 心肺蘇生について② 実習
- 18 回 応急処置 眼球摘出
- 19 回 応急処置 けいれん① 概要・状態の確認方法
- 20 回 応急処置 けいれん② 応急処置・その後の流れ
- 21 回 応急処置 窒息
- 22 回 応急処置 誤食/中毒① 概要・状態の確認方法
- 23 回 応急処置 誤食/中毒② 応急処置・その後の流れ
- 24 回 応急処置のまとめ(トリマーとして出来ること)
- 25 回 新生子ケア① 概要・母犬のケア
- 26 回 新生子ケア② 仔犬もケア
- 27 回 老齢動物への自宅でのケア
- 28 回 老齢動物への預かり時のケア
- 29 回 エンジェルケア
- 30 回 後期まとめ(試験対策)

授業の方法

座学、グループワーク

教材

コンパニオンアニマルの新健康管理学

⇒(著者：浅野妃美・浅野隆司 発行所：株式会社エドワードプレス 発行年：2025 年 3 月 27 日)

愛玩動物看護師カリキュラム準書教科書 9 巻

⇒(監修者：岩上大吾 小田民美

発行所：株式会社エドワードプレス 発行年：2025 年 2 月 7 日)

評価の方法

試験 70%、授業への参画 10%、課題への取り組み 20%で総合的に評価する

授業外での学習方法

事前学習として、次回の内容のタイトルを伝えるので該当教科書ページを読んでおく。自身で調べておく。事後学習として、配布プリントで復習を行い不明点は調べるもしくは次回質問をさせる。

実務経験と授業科目の関係

動物看護師としての勤務経験とペット用品卸会社広報の経験から、現場で遭遇するエマージェンシーの一次対応や応急処置を的確に伝えることができる

生体管理・フード学

(授業概要)

犬猫に必要な五大栄養素、エネルギー要求量、ライフステージに応じた栄養管理について体系的に理解することを目的とする。加えて、ペットフードに関する知識（種類・特性・選択方法）を習得し、現場での活用を見据えた実践的知識の定着を図る。

さらに、ウサギやフェレットなどの小動物における日常的な生体管理や衛生管理、お手入れの基礎を実践的に学び、総合的な健康管理ができる能力の育成を目指す。

科	生命科学科	教員	伊勢 朱里
コース	トリミングマネジメント	教員の実務経験	ペットショップスタッフ2年
対象年次	2年	年間単位数	1単位

目標

前期

- ・犬および猫に必要な五大栄養素の働きやエネルギー要求量について理解し、動物の健康維持に必要な栄養学の基礎知識を習得することができる。
- ・栄養バランスの考え方を身につけ、各動物の状態に応じた適切な栄養管理の基礎的判断力を養うことができる。
- ・小動物の生体管理として、モルモットやフェレットのお手入れ(耳掃除・爪切り・シャンプー等)方法を実践することができる。

後期

- ・ペットフードの歴史や種類、ライフステージに応じた選択方法について理解を深めるとともに、食物アレルギーや誤食防止などに関する知識を習得することができる。
- ・個体の状態に応じた適切なフード選択および指導ができる応用的な知識と判断力を養い、動物関連業界において実務に活かせる対応力の向上を図ることができる。
- ・小動物の生体管理として、ウサギのお手入れ(耳掃除・爪切り・シャンプー等)方法を学び実践することができる。

授業計画

- 1回 栄養学とは/栄養摂取するとは
- 2回 五大栄養素（たんぱく質）
- 3回 五大栄養素（炭水化物）

- 4回 五大栄養素（脂質）
- 5回 五大栄養素（ビタミン）
- 6回 五大栄養素（ミネラル）
- 7回 五大栄養素（脂質の消化）
- 8回 フェレットのお手入れ（耳掃除・爪切り）
- 9回 ボディコンディショニングスコア（BCS）
- 10回 エネルギー要求量（種類）
- 11回 エネルギー要求量（計算方法）
- 12回 エネルギー要求量（計算してみる）
- 13回 モルモットのお手入れ
- 14回 フードの歴史
- 15回 4D/フードの種類（ドライ・セミモイスト・ウェット）
- 16回 フードの種類（総合栄養食・栄養補助食・特別療法食）
- 17回 パッケージの見方
- 18回 添加物・酸化防止剤・保存料
- 19回 ライフステージ（哺乳期・離乳期・成長期）
- 20回 ライフステージ（維持期・高齢期）
- 21回 ライフステージ（妊娠授乳期・治療期）
- 22回 ウサギのお手入れ
- 23回 食物アレルギー
- 24回 犬猫が食べてはいけないもの（食物）
- 25回 犬猫が食べてはいけないもの（植物）
- 26回 PB と NB の違い
- 27回 手作り食
- 28回 サプリメント（使い方）
- 29回 サプリメント（形状と特徴）
- 30回 フェレットのお手入れ（シャンプー）

授業の方法

講義

教材

授業で使用する教材については、必要に応じて授業中に適宜配布していく。

評価の方法

試験 80%、課題への取り組み 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

次の単元のキーワードになると思うワードを指定し、予め調べてノートにまとめておくことを事前学

習とする。また、事後学習として、授業内容で疑問に思ったことを抽出し、自分で調べてみた結果をノートに整理しておくこと。

実務教員と授業科目の関係

総合ペットショップにおける実務経験を有しており、犬猫の栄養管理やペットフードの提案に関する知識に加え、ウサギやフェレット等の小動物に対する日常のお手入れや健康状態の観察に関する経験をもとに、実習を通して実務に即した知識および技術を指導する。これにより、幅広い動物種に対応できる実践的対応力の育成を図る。

生体管理・フード学

(授業概要)

犬猫に必要な五大栄養素、エネルギー要求量、ライフステージに応じた栄養管理について体系的に理解することを目的とする。加えて、ペットフードに関する知識（種類・特性・選択方法）を習得し、現場での活用を見据えた実践的知識の定着を図る。

さらに、ウサギやフェレットなどの小動物における日常的な生体管理や衛生管理、お手入れの基礎を実践的に学び、総合的な健康管理ができる能力の育成を目指す。

科	生命科学科	教員	伊勢 朱里
コース	トリミングマネジメント	教員の実務経験	ペットショップスタッフ2年
対象年次	2年	年間単位数	1単位

目標

前期

- ・犬および猫に必要な五大栄養素の働きやエネルギー要求量について理解し、動物の健康維持に必要な栄養学の基礎知識を習得することができる。
- ・栄養バランスの考え方を身につけ、各動物の状態に応じた適切な栄養管理の基礎的判断力を養うことができる。
- ・小動物の生体管理として、モルモットやフェレットのお手入れ(耳掃除・爪切り・シャンプー等)方法を実践することができる。

後期

- ・ペットフードの歴史や種類、ライフステージに応じた選択方法について理解を深めるとともに、食物アレルギーや誤食防止などに関する知識を習得することができる。
- ・個体の状態に応じた適切なフード選択および指導ができる応用的な知識と判断力を養い、動物関連業界において実務に活かせる対応力の向上を図ることができる。
- ・小動物の生体管理として、ウサギのお手入れ(耳掃除・爪切り・シャンプー等)方法を学び実践することができる。

授業計画

- 1回 栄養学とは/栄養摂取するとは
- 2回 五大栄養素（たんぱく質）
- 3回 五大栄養素（炭水化物）

- 4回 五大栄養素（脂質）
- 5回 五大栄養素（ビタミン）
- 6回 五大栄養素（ミネラル）
- 7回 五大栄養素（脂質の消化）
- 8回 フェレットのお手入れ（耳掃除・爪切り）
- 9回 ボディコンディショニングスコア（BCS）
- 10回 エネルギー要求量（種類）
- 11回 エネルギー要求量（計算方法）
- 12回 エネルギー要求量（計算してみる）
- 13回 モルモットのお手入れ
- 14回 フードの歴史
- 15回 4D/フードの種類（ドライ・セミモイスト・ウェット）
- 16回 フードの種類（総合栄養食・栄養補助食・特別療法食）
- 17回 パッケージの見方
- 18回 添加物・酸化防止剤・保存料
- 19回 ライフステージ（哺乳期・離乳期・成長期）
- 20回 ライフステージ（維持期・高齢期）
- 21回 ライフステージ（妊娠授乳期・治療期）
- 22回 ウサギのお手入れ
- 23回 食物アレルギー
- 24回 犬猫が食べてはいけないもの（食物）
- 25回 犬猫が食べてはいけないもの（植物）
- 26回 PB と NB の違い
- 27回 手作り食
- 28回 サプリメント（使い方）
- 29回 サプリメント（形状と特徴）
- 30回 フェレットのお手入れ（シャンプー）

授業の方法

講義

教材

授業で使用する教材については、必要に応じて授業中に適宜配布していく。

評価の方法

試験 80%、課題への取り組み 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

次の単元のキーワードになると思うワードを指定し、予め調べてノートにまとめておくことを事前学

習とする。また、事後学習として、授業内容で疑問に思ったことを抽出し、自分で調べてみた結果をノートに整理しておくこと。

実務教員と授業科目の関係

総合ペットショップにおける実務経験を有しており、犬猫の栄養管理やペットフードの提案に関する知識に加え、ウサギやフェレット等の小動物に対する日常のお手入れや健康状態の観察に関する経験をもとに、実習を通して実務に即した知識および技術を指導する。これにより、幅広い動物種に対応できる実践的対応力の育成を図る。

動物人間関係学

(授業概要)

人と動物の関係について歴史的背景を踏まえながら理解を深め、日本と海外における動物観の違いについて学び、ペット動物や産業動物など、動物の役割ごとの立場を整理する。そして、動物それぞれにおける人との関わり方について考察する。さらに、動物福祉に関する諸問題を取り上げ、その現状を理解するとともに、課題に対して主体的に考える力を養う。

科	生命科学科	教員	伊勢 朱里
コース	トリミングマネジメントゼミ	教員の實務経験	ペットショップスタッフ2年
対象年次	2年	年間単位数	1単位

目標

前期

・人と動物の関係の歴史的変遷について理解するとともに、ペット動物以外にも産業動物や展示動物など役割ごとの動物の立場について把握することができる。

・それぞれの立場における動物福祉の現状と課題について理解し、多角的な視点から捉える基礎的な考察力を身に付けることができる。

後期

・動物が人に与える影響（心理的・社会的効果など）について理解を深めるとともに、動物福祉に関する問題の現状を把握することができる。

・課題に対して自ら考え、適切な関係性や解決の方向性について主体的に考察できる応用的な思考力を身に付けることができる。

授業計画

- 1回 現代のペット事情を知る
- 2回 現代のペット問題を考えよう
- 3回 ヒトと動物の歴史(日本：はじまり)
- 4回 ヒトと動物の歴史(日本：中期)
- 5回 ヒトと動物の歴史(日本：戦後)
- 6回 ヒトと動物の歴史(世界：はじまり)
- 7回 ヒトと動物の歴史(世界：中期)
- 8回 ヒトと動物の歴史(世界：戦後)
- 9回 動物福祉・動物愛護
- 10回 法律上での動物

- 11 回 産業動物の福祉と課題
- 12 回 実験動物の福祉と課題
- 13 回 展示動物の福祉と課題
- 14 回 野生動物の福祉と課題
- 15 回 動物が人に及ぼす影響
- 16 回 子どもと動物
- 17 回 高齢者と動物
- 18 回 罪を犯した人と動物
- 19 回 殺処分について考える
- 20 回 殺処分についての現状
- 21 回 動物虐待について考える
- 22 回 動物虐待についての現状
- 23 回 多頭飼育崩壊について考える
- 24 回 多頭飼育崩壊についての現状
- 25 回 ペットロスについて考える
- 26 回 ペットロスについての現状
- 27 回 ペットの安楽死について考える
- 28 回 ペットの安楽死についての現状
- 29 回 ペットの社会進出について考える
- 30 回 ペットの社会進出の現状

授業の方法

講義・グループディスカッション

教材

授業で使用する教材については、必要に応じて授業中に適宜配布していく。

評価の方法

試験 80%、課題への取り組み 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

授業内容の復習を行い、人と動物の関係や動物福祉に関するテーマについて自らの考えを整理すること。
また、関連するニュースや資料、文献等を活用し、多角的な視点から理解を深める。

実務経験と授業科目の関係

担当教員は総合ペットショップにおける実務経験を有しており、動物と人が関わる現場での経験を踏まえ、人と動物の関係性や動物福祉に関する多様な価値観について考察する視点を提示する。これにより、

学生が主体的に考える力の育成を図る。

老齢犬ケア

授業の目的・概要

本授業では、犬の高齢化に伴う身体的・行動的变化を理解し、老齢犬に対する適切なケア方法および飼い主への支援方法を身につけることを目的とする。老化の要因や犬の成長過程を踏まえ、皮膚・被毛、消化器、歯、呼吸器、泌尿器、筋骨格系、神経系、感覚器など各身体機能の変化について体系的に学ぶ。また、老犬介護の基本や生活環境の工夫、運動・食事管理、療法や動物病院との連携について理解を深める。さらに、飼い主への情報提供やペットロスケアなど精神的サポートの在り方についても学習し、動物と飼い主双方への支援の重要性を理解する。授業を通して、老齢動物に対する適切なケア技術と倫理観を身につけ、動物福祉に配慮した専門職としての実践力を養うことを目指す。

科	生命科学科	教員	稲岡
コース	トリミングマネジメントゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2 年	年間単位数	1 単位

目標

前期では老齢犬の基礎健康管理を学び、どのような変化が訪れ、どのように対応していくのかを学び、老犬がどのようなものかをイメージできるようになる。

後期には老齢犬の介護の方法、家庭でのケア方法、オーナー様のケアを学び、具体的に将来どのように活かしていくのかを各自考えられるようになる。

授業計画

- 1 回 授業の説明、「老齢」とは？
- 2 回 犬の成長と老犬期
- 3 回 高齢化
- 4 回 老化の要因
- 5 回 飼い主への情報提供①食餌、健康管理など
- 6 回 飼い主への情報提供②運動、別離

- 7 回 老齢犬の身体的変化①皮膚・被毛
- 8 回 老齢犬の身体的変化②消化器
- 9 回 老齢犬の身体的変化③歯
- 10 回 老齢犬の身体的変化④呼吸器
- 11 回 老齢犬の身体的変化⑤生殖器
- 12 回 老齢犬の身体的変化⑥泌尿器
- 13 回 老齢犬の身体的変化⑦筋・骨格
- 14 回 老齢犬の身体的変化⑧心血管・血液
- 15 回 老齢犬の身体的変化⑨神経
- 16 回 老齢犬の身体的変化⑩感覚器
- 17 回 セラビー
- 18 回 前期の振り返り・調べ学習
- 19 回 老犬介護とは
- 20 回 生活の工夫①運動、徘徊
- 21 回 生活の工夫②生活スペース、食餌
- 22 回 介護と療法
- 23 回 動物病院、獣医師との関わり
- 24 回 介護のまとめと将来働く際の活かし方
- 25 回 自然医学療法
- 26 回 老齢犬のオーナーケア①ペットを亡くしたら
- 27 回 老齢犬のオーナーケア②ペットロスとは
- 28 回 老齢犬のオーナーケア③ペットロスによる感情反応と心理状態
- 29 回 老齢犬のオーナーケア④ペットロスによる悲しみ
- 30 回後期の振り返り・調べ学習

授業の方法

老犬及びその飼い主の対応に活かすための知識を学ぶ講義

教材

特になし（授業で使用する補足プリントについては、必要に応じて授業中に適宜配布していく。）

評価の方法

試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

機会があれば老齢犬に関わり、普段の様子を観察し、ノートに記しておく。

機会がない場合は、各項目において将来どのように飼い主さんへのアドバイスを行うかを考えて整理しておく。

実務経験と授業科目の関係

専門学校にて老犬に関する知識を学び、自身の愛犬、また日常生活において関わる犬の成長や介護に関わりながら、セミナー参加や自己学習を重ね、経験や新しい知識を交えての授業を行う。